



特集
1

伊万里をつくり 市民とともにそだつ はぐく 支えあい 育みあ つて 20年

市民の図書館

今、全国でユニークな図書館が注目されています。そのような中、20年にわたって市民とともに歩み続ける伊万里市民図書館。全国をリードする図書館として、その一貫した姿勢があらためて評価されています。その歴史を振り返り、図書館の新しい価値とは何か、情報化社会の中でめざす『知的創造型図書館』とはどのようなものなのか。成人式を迎えた市民図書館の昨日・今日、そして明日について考えてみましょう。

● 問合先 市民図書館 (☎09464646)

市民図書館の夜明け

■ 始まりは『ぶつくん』から
図書館の夜明けは新図書館の開館に先立ち、自動車図書館2台を走らせたことです。市域の広い伊万里で全域平等にサービスするため『ぶつくん』が巡回。図書館の貸し出し数を倍に増やしました。これを弾みにして新図書館建設が始まります。

建設の準備に向けて

平成4年に建設準備室を設

置し、平成5年に市民団体などの意見を聞きながら設計協議が開始され、図書館を学ぶ公開講座も実施されました。図書館の目標は『伊万里をつくり市民とともにそだつ市民の図書館』。高齢社会を見据えてたくさんの座席を備えた滞在型の図書館をめざしました。

市民と一緒に起工式を祝う

平成6年の起工式には、市民200人が集まり、ぜんざいを食べてお祝いしました。これが市民協働の始まりです。



成長を数字とサービス内容で見てもみよう

成長を続ける市民図書館

『図書館は成長する有機体である』

図書館学者のランガナタンが提唱した『図書館学五原則』では、最後にこの言葉が述べられています。

伊万里の図書館も20年の間に成長を続けてきました。『市民とともにそだつ』図書館の表れです。

【成長 その1】数字で見る変化

	平成7年度末(計)	平成26年度末(累計)	増加率(倍)
登録者数(人)	24,509	39,861	1.63
蔵書数(点)	136,753	391,912	2.87
貸し出し数(点)	433,696	10,188,963	23.49

落成から貸し出し
1000万冊まで

■市民図書館の誕生

平成7年7月7日七夕の日、名前を市民図書館に改め、開館しました。テープカットは市長以下7人。『図書館づくりをすすめる会』も『協力と提言』を合言葉に『図書館フレンズ いま』に生まれ変わりました。

■全国から注目を集める

市民とともに建てた図書館は、当時も半年間で5千人の視察があるなど、全国から注目され、貸し出し数も旧館の10倍以上。平成9年には貸し出し100万冊を達成しました。また、その年度には『日

職員も奮闘中です

市民図書館 係長
末次 健太郎



最近では、全国からの視察も増えています。館長と私で分担して対応しています。

子ども読書のまちへ
子どもたちの読書推進に力を注ぎ、平成14年に文部科学大臣表彰を受賞。開館10周年の平成17年には、片山善博さん(元鳥取県知事)の講演など『図書館伊万里塾』を6回開催しました。そして、平成19年、全国に先駆けて『家読』に

【成長 その2】新たに拡大・導入したサービス

- ①本の貸し出し冊数の制限を解除【平成9年4月】
- ②住民票の交付を開始(市役所で予約が必要)【平成12年7月】
- ③インターネットでの資料検索を開始【平成12年10月】
- ④インターネットで資料の予約受け付けを開始【平成13年4月】
- ⑤祝日の開館日を5日間に増加【平成15年4月】
- ⑥おはなし会を拡大(赤ちゃん向け『おはなし012』)【平成16年6月】
- ⑦ブックスタート(3か月児に絵本を贈呈)を開始【平成16年7月】
- ⑧土・日曜日の開館時間を午後6時までに延長【平成18年4月】
- ⑨オンラインデータベースを導入【平成23年4月】
- ⑩カラーコピー機を導入【平成24年5月】
- ⑪歴史的音源の試聴を開始【平成25年2月】
- ⑫『デジタル化資料送信サービス』を提供開始【平成26年3月】

本図書館協会建築賞』を受賞しました。

取り組み、黒川町民の手で家読のテーマソング『こころつないで』が完成。これらの活動で、第2回文字活字文化推進大賞を受賞。平成22年の15周年には、柳田邦男さんを招き『子ども読書のまち・いまり』を宣言。平成26年の市制施行60周年の文化の日には、貸し出し1000万冊を達成しました。

■市民生活のオアシス

この20年間に市民生活のオアシスとしてすっかり定着し、これまで結婚式の前撮り写真も2組が撮影。ぶつくんも2台体制で20年が経過。市民に親しまれながら、今や全国トップレベルの貸し出し数を誇ります。

市民図書館のあゆみ

- ▽平成3年6月・5年4月
ぶつくん1・2号出発式
- ▽平成3年4月
図書館建設準備室設置
- ▽平成4年11月
おはなしキャラバン開始
- ▽平成5年6月
図書館づくり伊万里塾開始(以降2月までに8回開催)
- ▽平成6年2月
図書館建設起工式
- ▽平成7年7月
市民図書館落成式
- ▽平成7年9月・10月
図書館開館記念講演会
- ▽平成8年7月
図書館フレンズいまり発足
- ▽平成8年7月
開館1周年図書館☆まつり開催(以降毎年開催)
- ▽平成9年5月・10月
貸し出し100万冊達成
- ▽平成12年6月
第13回図書館協会建築賞受賞
- ▽平成12年6月
第3回絵本学会大会開催
- ▽平成13年6月
第7回公共建築協会優秀賞受賞
- ▽平成13年6月
いすの木合唱団誕生
- ▽平成14年4月
文部科学大臣表彰『子ども読書活動優秀実践図書館』

〔次ページ下段に続く〕

私にとって図書館とは

本が好き、図書館という空間が好きで毎日のように来館する人
自分の楽しみだけでなく、時間の経過とともに子どもや孫を連れて来館するようになった人
ボランティアとして図書館にかかわり、支えてきた人・・・いろいろな人の思いを聞いてみました。

成人式おめでとうございます



岡田政昭さん
(64歳・東新町)

昭和61年から開館までの『図書館づくりをすすめる会』と『図書館フレンズいまり』初代の代表を務めさせてもらいました。まだ閑静な場所でも勉強する図書館像のころです。会では面白い物がてらに、気軽に立ち寄り、子どもからお年寄りまで楽しめる身近な図書館が市街地に欲しいと活動していました。行政に造ら

今は親子で利用しています

図書館開館の時は小学5年生でした。先生から声を掛けられて、テープカットに参加しました。突然のことで、しかも周りは知らない人ばかり。驚きながら、テープを切ったことを覚えています。以前の図書館と比べて、とても広くなっている感じがしました。中学・高校でも学校帰りによく立ち寄り、吹奏楽部で☆まつりに出演したことも思い出

せる運動ではなく、ともに汗をかく活動を皆で心がけました。振り返ると、時の運や人の出会いに恵まれていたと思います。第1回☆まつりは、20歳成人式まで大きく育てようと願い、誕生お祝い会となりました。開館時の理念『図書館は帆・市民は風』を引き継ぎ、これからもすすてきな図書館であってほしいです。

足行く報
発行づ報
ので館会
会『図書
手『図書
61年『図
昭和とし



建設に向けた熱い思いが込められています。

のひとつです。ブックスタートで子どもに絵本をいただきます、今は家で読み語りをしています。最近自分より子どもたちのために利用していますが、いつまでも『MY図書館』であってほしいと思います。



内田 妙さん
(31歳・白野)

何よりも図書館通いが楽しい



門岩男さん
(90歳・上ノ山)

以前から図書館を利用していましたが、孫守りのために伊万里に住んでからも、図書館通いが楽しみです。活字を読むと脳が活性化するらしく、いまだにボケずに過ごしています。図書館員に知らない作家を教えてもらうのも新しい発見です。入院中は家族に本を借りてもらい、毎日読んでいました。戦争に行った経験から、戦記物はよく読みました。若い世代の人には戦争の悲惨さは活字で想像してもらえれば十分です。自転車通いから杖をついて歩くようになりましたが、これからも喜んで通いたいと思えるような図書館でいてください。

職員も奮闘中です

司書 小柳良子



毎月テーマを変えて本を並べます。企画展示は、館内に40か所以上ありますよ。

〔前ページ下段の続き〕

- ▽平成15年12月 片岡繁男詩碑除幕式
- ▽平成16年6月・7月 『おはなし012』開始
- ・『ブックスタート』開始
- ▽平成17年2月・7月 貸し出し500万冊達成
- ・開館10周年記念伊万里塾開催 (以降12月までに6回開催)
- ▽平成19年6月・10月 黒川町をモデルに『家読』スタート
- ・片岡繁男犬塚堯文学館開設
- ▽平成21年10月 第1回家読サミットin伊万里開催
- ▽平成22年10月 開館15周年記念家読シンポジウムで『こども読書のまち・いまり』を宣言
- ▽平成25年12月 九州うちどくネットワークフォーラムin伊万里開催
- ▽平成26年4月・10月・11月 文部科学大臣表彰『子どもの読書活動優秀実践図書館』(2回目)
- ・第100回全国図書館大会で図書館フレンズいまりに感謝状
- ・貸し出し1000万冊達成
- ▽平成27年6月 『じんじん』映画会を図書館フレンズと共催で開催



ひとづくり・まちづくりの拠点として

さらに成長していくために

開館から20年が経過し、着実に利用者が増加しています。これからさらに多くの人に信頼され、活用してもらうために、めざす図書館の姿とは。皆さんは図書館に何を期待しますか。

知的創造型図書館とは

■ 活発なボランティア活動

市民図書館の際立った特徴は、ボランティア活動が活発なこと。平成16年にボランティアも参画して始まったブックスタート事業では、毎週木曜には乳幼児向けのおはなし会『おはなし012』を、のぼりがまのおへやで開催しています。そこでは、子育て真っ最中の親子の輪が広がっているようです。このような市民活動の展開を受け、平成21年に塚部芳和市長が、「市民図書館には指定管理者制度を導入しない」と宣言しました。当時の新聞記事では、「市民とともに理想の図書館づくりをめざしているトップの見識である」と報じています。

■ 情報化に対応した機能

今、全国ではビジネス支援としての図書館の役割が注目されています。これまで、市民図書館の調査・相談機能を利用して、2人が会社を興されました。また、都市と地方の情報格差をなくすために、データベースを導入し、最新の情報を入手できる体制を整えています。

■ 新たな夢へのチャレンジ

このような情報化に対応した機能や、市民の文化活動を高める役割により、これからの新たな時代の図書館の姿は、『知的創造型図書館』であると言われています。

20周年を迎えた市民図書館は、『ひとづくり・まちづくりの拠点』をめざしています。そして今、市民と行政がともにこの新たな夢に向かって立ちのちの時を迎えているといえるのではないのでしょうか。

美しき生活者をめざして

ひとづくり・まちづくりのための生涯学習や情報の拠点をめざして、市民協働で開館した図書館が20周年を迎えました。当時、私は建設準備室長でしたが、今日の日を迎えるためには、建設に携わった人たちの努力と歴代の図書館フレンズいまりやボランティアの人たちの強い思いや活動があったことを忘れてはならないと思っています。多くの市民に愛され、支えられて、全国のトップ10に入る図書館という評価を受け、いまだに全国からの視察が絶えません。

そもそも『伊万里学』を背景として生まれた市民図書館は、その理念である『美しき生活者』を支えることをめざしています。人としての姿勢や生きがいを求めて、今日より明日と一歩ずつ成長していく美しい生き方。人が育ち、まちが育つ、市民図書館はその学びの広場というわけです。赤ちゃんからのブックスタートに始まり、家庭での『家読』など子どもの読書の大切さは、人格形成に大きな役割を果たしています。情報化の今日、大人にとっても知識の蓄積や情報の収集は、仕事や生活の役に立ち、さらに高齢者にとっては老化防止に前頭葉を使う活字の力が、今あらためて注目されています。

しかし、図書館を信頼する市民の数を外国と比べると、欧米が7～8割に対し、日本はまだ2～3割でしかありません。真に信頼され、愛される大人の図書館になるため、市民図書館は新たな20歳のスタートラインに立ったところです。



市民図書館長
古瀬 義孝

開館20周年記念行事のお知らせ

- 市民参加型連続公開講座『図書館伊万里塾』
市民図書館の今後のあり方と住民の関わりを考える公開講座を連続5回開催。入場無料です。
▷ 第1回【9月6日(日)】
岡 幸江さん(九州大学准教授)
▷ 第2回【10月4日(日)】
草谷 桂子さん
(静岡図書館友の会会員、児童文学作家)
▷ 第3回【12月20日(日)】
猪谷千香さん(『つながる図書館』著者)
▷ 第4回【1月】、第5回【2月】※詳細未定
- 森永太一郎顕彰コーナー開設
森永太一郎生誕150周年と市民図書館開館20周年を記念して、コーナーを開設します。
▷ 開設日 11月21日(土)
▷ 内容 森永太一郎ゆかりの品を常設展示
※調査委員会による講演会も開催します。
- 『図書館フレンズいまり』記念講演会
9月で発足20年を迎え、講演会を開催します。
▷ 【9月12日(土)】藤原佳典さん講演会